

南アルプス周辺(南部フォッサ・マグナ地域)の飲用水の水質状況とその特徴

目的および背景

本県の用水(工業用水, 農業用水, 飲用水など)に関する調査は, 昭和40年ころから実施されてきた。これらの調査報告では, 甲府盆地周辺や八ヶ岳南麓, 富士山麓周辺の水試料に関する報告が多く, 主に工業や農業への水利用に関する調査結果である。一方, 近年の研究から, これら地域の地下水が地質的な影響を受け, 水質が形成されていることが明らかになり, また, 一部の地域では土地利用形態の変化により水質が変化しつつあることも分かった。

ところが, 本県の飲用水に関する調査のうち, 鵜沢以南の富士川沿いおよび南アルプス山麓東側(以下「南アルプス周辺」と記す)に対する水質状況や水利用に関するデータ集積は十分に行われておらず, 将来的な水質性状を推定するためには, 現在の水質状況や過去から現在に至る時間的な変化傾向を十分に把握する必要がある。

そこで, この研究では, 南アルプス周辺地域の地下水・表流水の水質状況を解析し, 地域的な特徴や差異を把握することを目的とした。

方法および手法

- 1) 当該地域の水道水源に利用されている飲用地下水の水質について, 水道水源水質検査結果などの水質に関連する資料を収集する。
- 2) 地下水の採取利用状況を確認し掘削状況や井戸情報を収集する。
- 3) 河川上流域及び地下水の主要成分や微量に含有される元素を基に, 水質性状や地域的な特徴を捉える。
- 4) 地形や地質との関連性を検討し, 水収支や濃度状況を解析する。

期待される成果

本解析結果は, 鵜沢以南の富士川沿いおよび南アルプス山麓東側の水質状況を明らかにし, 今後の水利用のための基礎資料として活用できると考えられる。